

## 鹿児島城(鶴丸城)御楼門

岐阜県博物館友の会 会長 亀山 義比古



写真1 復元正面写真

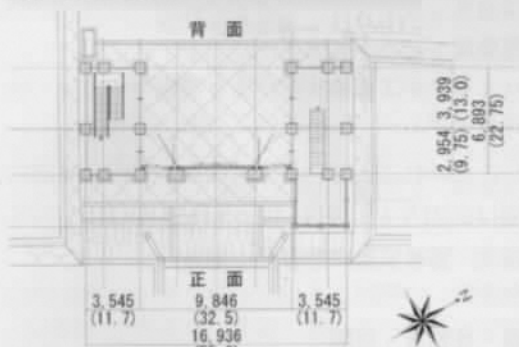


図1 平面図

1 正面図



写真2 背面写真

通称鶴丸城には天守閣はありません。その代わり城門は国内最大級の大きな門です。この御楼門は慶長十七年(一六一二)に建立され元禄年間(一六九〇～一七〇〇)に再建に取り掛かり、宝永四年(一七〇七)に竣工しました。しかし明治六年(一八七三)再び焼失、以後石垣、礎石のみが残った状態でありましたが、此度鶴丸城御楼門建設協議会が設立され平成三十年(二〇一八)起工、令和二年(二〇二〇)完成しました。私は施工計画から竣工に至るまで携わってきましたので御楼門について私見を述べます。

規模の大きな櫓門ですが本当の迫力に使われている木材の巨大さとその組方です。一階の柱は二・二尺角(六六・七センチメートル)角、十六本、二・二尺角(六六・七センチメートル)角、敷梁末口径八〇センチメートルという巨大な檜材で組み上げられています。どれくらい巨大か、と言うと世界最大の木造建築物である東本願寺御影堂の柱は一番太い柱が直径二・八尺、大半の柱は直径二・四～二・五尺です。御楼門の大半の柱は直径に換算すると三・一尺です。御楼門の柱がこんなに太いかわかります。さらに写真2に映っている

丸太の梁は末口径(一番細い処の直径)が八〇センチメートル、長さ一・一メートルの檼です。これ等の檼原木は現在日本国内で調達できる限界の大きさのものです。創建当時でも原木調達には相当な苦勞があったと想像されます。又、これだけの巨木になると小径木では問題にならなかったことが難関としてでています。まず写真2の丸で囲んだ柱脚部分です。柱は礎石の上に立つており礎石の上端面は凸凹があります。この凸凹を柱下端面に操付ければなりません。操付作業は柱を何度礎石上に立てて行いますが重量二・一トンもの柱となると大変な労力を要します。因みに今回は礎石形状を3Dスキャンしています。

今一つの難関は丸印を付けた貫の納め方です。結論だけ申しますと、垂直に立つ柱二本と隣の斜めに立つ寄掛柱計三本の柱と三段の貫を寝かせた状態で組み、この架構を礎石の上に据えま

す。今回の工事では二百トンクレーンと治具でこの架構を礎石上に正確に据えましたが、ロープ、滑車と人力のみで当時どのような方法で組み上げたのか不思議なことです。因みに現存する城門で貫が御楼門のように組まれたものは私の知る限り他にはありません。

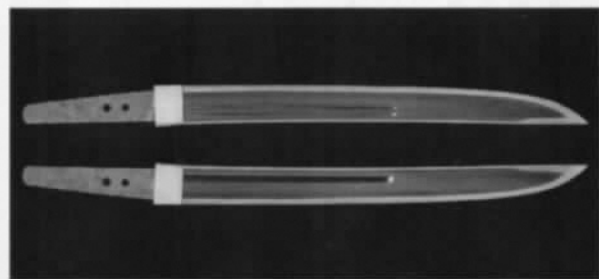
御楼門は時の権力者徳川幕府に対し薩摩(島津氏)の実力を感じさせなければならぬ建物である必要があったと、私は工事を通して感じました。

## 「千磨百錬 よみがえる赤羽刀」について

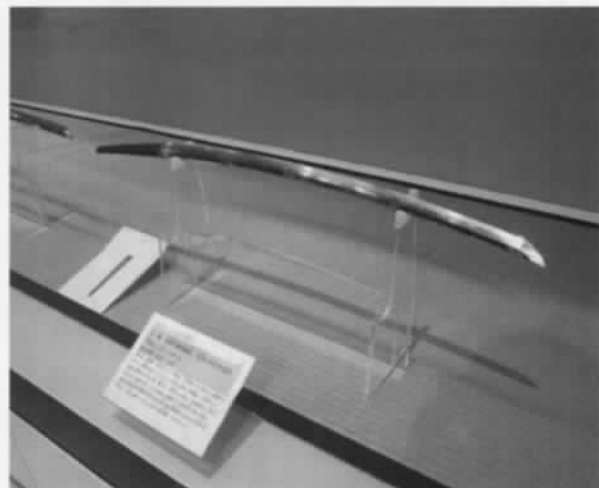
岐阜県博物館 学芸部 南本 有紀

岐阜県博物館では、平成31年度より県図書館・企画展示室Ⅱを使った移動展として連携企画展を実施しています。2018年11～12月「木曾街道六十九次」、2019年1～3月「芝居大国！岐阜」、4～6月「岐阜の山城調査」、2020年1～3月「清流長良川」と続き、今年4～6月「オリンピックの歴史とデザイン」はコロナ禍で惜しくも中止となりました。

さて、今回の「千磨百錬 よみがえる赤羽刀」は、当館所蔵の赤羽刀をまとめて公開する展覧会です。赤羽刀とは、第二次世界大戦で武装解除のため日本国内で占領軍に没収された日本刀のうち、歴史・文化的価値を認められ、文化財・美術品として返還されたもののうち旧所有者不明で全国の公共博物館等に譲渡された刀剣をいいます。当館では168点を受領し、外装(鞘など)を失い、錆びてしまっているこれらを、順次、研磨整備してきました。本展では、令和元年度までに作業の完了した48点につき会期を今年度・次年度の2回に分けて24点ずつご紹介します。美濃や美濃から移住した尾張の刀工をまとめて展観できるよい機会と思います。



脇指 銘 飛騨守氏房 岐阜県博物館蔵、撮像：中村慧



展示のようす

展示会場は岐阜市・岐阜県図書館(2階・企画展示室Ⅱ)で、新型コロナウイルス感染対策のため、入場は1階・閲覧室から階段またはエレベーターを使ってください。

展覧会とその関連催事は

新型コロナウイルス感染状況により予期せず変更・中止があり得ますので、事前にホームページで確認の上、ご来場いただければと思います。なお、今回の前篇に続く後篇は2021年4月24日(土)～6月13日(日)を予定しています。併せてお立ち寄りください。

### 1 会期・休館日・時間

2021年1月19日(火)～3月14日(日)

休館日：毎週月曜日・図書整理日(1月29日(金)・2月26日(金))

### 2 会場・入館料

岐阜県図書館 2階・企画展示室Ⅱ  
(岐阜市宇佐 4-2-1)  
電話058-275-5111)  
無料



関連図書コーナー



展示のようす

## ミニ企画展の紹介

### 「初期万国博覧会と日本の輸出陶磁器」

岐阜県博物館 学芸部 立花 昭

4年後の2025年に「大阪・関西万博」の開催が決定しました。国内では、1970年「大阪万博」、2005年「愛知万博」に続く登録博覧会(規模の大きな万博)となります。現在開催中の「初期万国博覧会と日本の輸出陶磁器」では、こうした万博が初めて開催され、その後どのように展開していくのかを、約40点の関連書籍や陶磁器などでたどります。

世界初の万博は、1851年にイギリス・ロンドンで開催されました。そして、1862年の2度目となるロンドン万博で初めて日本の製品がまとまって紹介され、1873年のウィーン万博(オーストリア)では、名古屋城の金鯱も展示されました。すると、欧米で日本ブームが沸き起こり、多くの画家や工芸家も影響を受けます。さらに、日本から輸出された美術品などを参考としてアール・ヌーヴォーという新たな芸術様式が誕生し、逆に日本の陶磁器などにも影響を及ぼすこととなりました。会場では、それぞれの万博会場の様子や当時輸出された陶磁器などをご覧ください。

【会期】 開催中～4月11日(日)



▲1851年 ロンドン万国博覧会「水晶宮」内

## 自然災害について考えよう

### 「2021年を防災の年に！」

岐阜県博物館 学芸部 熊澤 忍

2021年3月11日は、東北地方太平洋沖地震が発生してから10年となります。マグニチュードは9.0とされ、日本の観測史上最大規模の、それまでの想定をはるかに超えた揺れと津波を発生させました。

地震には、海溝型地震や内陸型地震(直下型地震)、火山性地震といった様々なタイプの地震があります。地球の表面は、プレートとよばれる硬い岩盤に覆われており、陸のプレートと海のプレートの運動によって生じる地震を海溝型地震といいます。東北地方太平洋沖地震は海溝型地震でした。内陸型地震は内陸の活断層の活動によって発生し、火山性地震はマグマの活動によって発生します。

岐阜県には10以上の活断層があります。岐阜県でも、1891年に現在の本巣市根尾で濃尾地震が発生しています。マグニチュード8.0と推定され、世界でも最大級の内陸型地震です。兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)と熊本地震のマグニチュードは7.3ですので、その大きさは想像をはるかに超えるものではないでしょうか。

2021年は濃尾地震が発生してから130年という節目の年でもあります。地震に限らず、毎年のように全国各地で自然災害が発生しています。いつ・どこで起こるか分からない自然災害は、今、ここで起こるかもしれません。もし災害が発生したとき、家族は、自分は無事でいられるでしょうか。2021年は家庭での災害対策を何か一つでも始めてみてはいかがでしょうか。



▲歌川国利 岐阜市街大地震之図



蛾はお好きですか？(2)

## どこが違うの？ 蝶と蛾

岐阜県博物館 学芸部 説田 健一

博物館では蝶と蛾はどこが違うのかという質問をよく受けます。私は、「蝶と蛾は同じなかまだが、蝶は日中に活動し胴体が細いが、蛾は夜行性で胴体が太いものが多い・・・蝶の触覚は細くて先端が棍棒のような形をしているが、蛾の触角は複雑な形をしているものが多い。」と答えています。しかし、種類が多い蛾のなかには、少なからず“蝶”のようなものがあります。

当館では、4月から11月上旬にかけて、百年公園に生息する蝶類の種類や数を調査しています。調査地域で見られるチョウの種類は限られるので、調査は慣れれば誰でもできますが、ときどき、見慣れない“蝶”の出現に戸惑うことがあります。イカリモンガやキンモンガといった日中に活動する蛾です。これらの蛾は翅の模様や飛び方が蝶によく似ています。蛾と言えば、夜行性のイメージが強いですが、昼行性のものもいます。夜行性の蛾類の翅の模様は樹皮や木の葉など植物によく似た形や模様であることが多いですが、日中、活動するものには、蝶のように目立つ斑紋を持つものがあります。

最初の質問の答えは「両方とも同じなかまで、日本では昼行性の大型の蛾の一部が蝶で、それ以外は蛾です」と答えるのが正しいのかもしれませんが。



▲キンモンガ(左側)とイカリモンガ(右側)

マイミュージアムギャラリー 第6回展示

## 小笠原流 弓と礼法

2021年2月6日～2021年3月21日

岐阜県博物館 学芸部 加賀 隆志

令和2年度の第6回展示では、弓馬術礼法小笠原流岐阜県同門会代表の兼松邦夫さんによる「小笠原流弓と礼法」を開催します。

小笠原流は鎌倉時代より続く武家礼法、弓術、弓馬術の流儀です。現在は31世宗家小笠原清忠氏の指導により、全国約700名の門下生が修練しています。今回の展示では、普段は時代劇的一幕でしか見ることのない、武将たちが重んじていた立ち居振る舞いや人生の通過儀礼、武を示すとともに様々な祈りを表すための弓馬の技や作法を、様々な道具や写真を交えながら紹介します。

弓道には、あまり馴染みのない方も多いと思いますが、日本人が普段何気なく使用している言葉の中には、弓道が由来となったものが多くあります。その一つが「かけがえのない存在」の「かけがえ」です。「かけ」とは、弓弦を引く右手に付ける手袋の事で、弓引きの命とも言われ、他人には使用させない大切なものを指しています。この他にも「当たり前」や「こんなはず」という言葉も弓道が由来の言葉です。

弓具の弓や矢を通じて和の武道世界を感じていただければと思います。ぜひご来場ください。



▲弓と矢

## 圧巻「岐阜県植物誌」紹介

岐阜県博物館 友の会 井上 好章

令和元(2019)年、『岐阜県植物誌』が無事に刊行されました。その年の秋に岐阜県博物館で、特別展として「岐阜は日本のど真ん中—岐阜県植物誌語る—」が開催されました。

この岐阜県植物誌をつくろうと高橋弘会長を囲んで岐阜県植物誌調査会が発足したのは、2002年です。

当時は、岐阜県博物館の収蔵庫の標本を充実させるため、月1のペースで岐阜県博物館に集まり、標本作製する活動を続けていました。岐阜県植物誌を発刊する目的に向かって会員が共に取り組む姿は、まるで大海にこぎ出した数隻の小船といった感じでした。

そして会員(約40名)同志が努力・協力を惜しみなく積み重ね、構想から約20年かけて、ようやく完成に至ったのです。会員の皆さんの汗と涙の結晶が、この『岐阜県植物誌』そのもののなのです。

この植物誌が特に素晴らしい点は3つあります。

一つ目は、植物研究者のプロとアマが分担して執筆していることです。しかも解説文や同定検索表は、最新レベルの学説による内容となっています。

二つ目には、すべての種について、岐阜県博物館と岐阜大学の標本をもとにした岐阜県内の分布図を示していることです。(尚、その分布図は、絶滅危惧種等に配慮してあります。)

三つ目には、貴重な故井波一雄氏と故二村延夫氏の植物細密画が多く載っていると同時に、貴重種の鮮明な画像が冒頭部分に豊富に載っていることです。

現在、「岐阜県植物誌」発刊後、多くの植物分布等の

新情報が寄せられています。したがって岐阜県植物誌調査会の組織を一部変更し、今も地道な調査を続けています。「岐阜県植物誌」第2版をめざして。



どちらもミュージアムショップで販売中

## 特別展来館者の声から

岐阜県博物館 友の会事務局 高屋 嘉文

昨秋の特別展「光秀が駆けぬけた戦国の岐阜」では、新型コロナウイルス感染拡大の第2波と第3波の狭間で、かつ、「Go To トラベル」の最中であったため東京、横浜、神戸、山口等、遠来の方も結構いらっしゃいました。ショップへ来られた方々との会話で、いろいろなことがわかりました。

早い時間帯に来館された方に「このあと、どちらかへ行かれるのですか?」と尋ねると、「岐阜城、それから蓮台城(田代城)址です」とか、「長久手へ行きます」。このような熱い「森家推し」、「森長可推し」の女性は何人もみえ、その素敵な熱意に感動。また、十文字槍のポスターを丁寧に梱包してお渡しした女性2人組には、「来てよかったね」、「ホントよかったね」と特別展の感想を言っていました。

来館の動機等では、「高山に行っていたが、そこでチラシをみて予定変更でここへ来た」という愛知県の方や、「知らなだけで今朝CCN(ケーブルテレビ)でやっていたので」というご夫婦、「ツイッターで見た」という若い女性、「うちは(先祖が)森家に(あるいは稲葉家に)つながっているんです」という方も何組か。また、郡上からの男性グループは「八幡城主だった稲葉氏の展示がされているから」と言ってみえました。

会期中に来られなかったり、講演会を聴けなかったり、残念という方々は代わりに図録を購入していかれました。展示資料の大半が掲載、講演会講師の寄稿もあり、見逃した方々にもうってつけの資料です。岐阜新聞文化欄に6回(※9/2・9・23、10/7・14)連載された記事がとても参考になることもお伝えしました。

来館者の声を聴き、来館者満足度向上と館のよりよい運営に資し、館の価値を高めたいと思います。



国内旅行・海外旅行のお申し込み

(株)近畿日本ツーリスト中部 岐阜支店

〒500-8501 岐阜市大町1-1-1 岐阜県博物館 友の会事務局内 TEL:058-285-0203

〒500-8501 岐阜市大町1-1-1 岐阜県博物館 友の会事務局内 TEL:0577-32-8901

## 岐阜県博物館からのお知らせ

### ○博物館サポーター募集中

令和3年度の岐阜県博物館サポーターの募集を行っております。

11種類の活動があり、興味のあるグループ複数に参加が可能です。

#### ■催し物支援グループ

日曜日に開催される「わくわく体験」の活動支援をはじめ、主に休日行われる「けんぱく教室」の活動支援を行います。

#### ■学習活動支援グループ

小学生向けの「春見つけ」「秋見つけ」などの学習支援を、学校団体の利用のある平日に活動します。

#### ■各種資料収集・整理グループ

7つのグループに分かれています。鳥獣標本作製(ダチョウ組)、昆虫標本整理、魚研究(岐阜県魚研究会)、里山調査(モニタリングサイト1000里地調査グループ、植物資料整理、化石・地学に関わる資料整理・催し物支援(ジオ・グループ)、人文資料の管理・整理グループと、それぞれ学芸員とともに博物館資料を収集・整理します。

#### ■人文催事グループ

人文イベント開催時の受付等を行います。

#### ■IPMグループ(博物館見回り隊)

館内施設の虫・カビの見回り、それらの記録、簡易な清掃等

申込は、当館ホームページまたは、サポーター控室にある申込用紙に記入の上、博物館にご提出ください。

詳しくは当館ホームページ内の「博物館サポーター」のページをご覧ください。

友の会の会員と合わせて、岐阜県博物館の活動を盛り上げていただける方の応募をお待ちしております。

## 友の会事務局からのお知らせ

### ★令和2年度後期友の会の主な活動について

#### ○秋季理事会の報告

秋季理事会が10月8日(木)に開催され、①令和2年度会務中間報告、②一般会計・特別会計中間報告、③後期の会務について、承認されました。

#### ○探訪の旅について

令和3年2月2日(火)～2月5日(金)予定の宿泊探訪「復元された鶴丸城御楼門と神話の里 高千穂を訪ねる旅」は、25名の参加希望をいただきました。新型コロナウイルス感染拡大第2波のあとのやや落ち着いた時期に計画を進め、旅行社の担当の方とも安全・安心な旅となるよう検討・確認を重ねていたのですが、予想をはるかに超える第3波の急激かつ危険な拡大ため、中止としました。

#### ○「七草がゆをたべよう」について

例年1月7日に開催の恒例行事ですが、前号でお知らせしたとおり今年度は中止。毎年ご協力いただいている会員、サポーターの皆さまは、貴重な催事の機会がなくなったことをとても残念がってしまいました。

#### ○図録の刊行について

図録『みんなの恐竜学』を12月に刊行しました。ミュージアムショップで好評販売中です。

「博物館の展示会をお家に持って帰りませんか？」

「図録を見直すと新しい発見がきっとあります！」

会員のみならず、ぜひお買い求めください。1割引の会員価格でご購入いただけます。

#### ○3月13日(土) 会長・副会長会議

### ★会員数のさらなる拡大について

友の会活性化のため、また、岐阜県博物館をサポートするため、会員の拡大を願っています。お知り合いの方にご加入のお誘いをいただければと思います。

言うまでもなく会員証提示で入館料無料となります。「年間パスポート」として活用できることもお伝えいただければと思います。